

APRENだより 第41号



長崎県技術士会
平成25年4月15日発行
責任者 山口和登

平成24年度日本技術士会九州本部技術士論文発表会に参加（聴講）して

（株）高崎総合コンサルタント

県副会長 毎熊 元（農業、総合技術監理）

まだ、気温10度と冬の寒さが残る2月23日（土）、福岡市において九州本部主催の「技術士論文発表会」が技術士研鑽（CPD）の一環として開かれました。

この会は、毎年、この時期に開催されています。時間の都合上発表者は10名程度に制限されているようですが、全員の発表終了後、審査会を経て、発表者の中から最優秀者1名、優秀者数名が選ばれ、表彰されます。副賞として金額はわかりませんが賞金が付いているようです。

この発表会への参加は昨年に続き2回目ですが、発表される方はよく勉強されて、レベルが高い発表会であり、自分のスキルアップを図り視野を広めることができればと思い、今年も参加しました。

去年の発表者は11名で応募者が定数以上あり、発表者の調整に苦労したことでしたが、今年は10名で、前年度と同じ方も発表されており、応募者が少なかったのかな、と感じました。

開催時間が午前10時から午後5時までで1日たっぷりの発表会でした。

発表会の内容

発表に先立ち、最初の九州本部長である甲斐忠義氏から開会の挨拶では、「発表会で入賞された方は全国大会で発表出来る。皆様頑張って下さい」と励ましたことばかりがあり、次に副本部長の伊藤整一氏から論文発表時の時間調整などのお願いがあり、論文発表へと進んでいきました。

発表時間は1人20分、質問時間が5分、計25分で、時間超過は減点の対象となります。部門別の発表者数は、応用理学1名、建設2名、上下水道2名、環境2名、化学2名、生物工学1名、内修習技術者3名という内訳です。

発表者の所属機関は、財団法人、市等自治体、公社、建設系コンサルタント、一般企業研究所と多方面にわたり、幅広い部門に及んでおり、自分が専門とする部門以外は分からぬことが多かったが、レベルの高い話を聞くことができたと思っています。

長崎県からは、松浦恭千氏が「老朽化した施設の維持管理」の題材で、松浦鉄道の老朽化の状況調査、維持管理手法について発表され、興味深く聞かせて頂きました。松浦様、準備から発表まで大変お疲れ様でした。

ちなみに、最優秀賞は（株）ジェイペック若松（北九州市）の八百屋さやか氏（生物工学、技術士補）で、テーマは「途上国を対象とした技術研修の形」。

内容を要約すると「北九州地域は、環境モデル都市として環境系に関わる途上国を対象とした技術研修が多数実施され、本人もその一翼を担っている。しかし帰国後の研修員の追跡情報がなかなか入手出来ず、日本とは大きく違う環境の中で、研修結果がどのように活かされているかは把握出来ていない。短期間の研修では、異なった環境下でも柔軟に対応できるスキルが身についたとは言えず、継続的な技術フォローが必要であると感じている。他方途上国へ滞在し技術支援を行う青年海外協力隊（JOCV）も専門知識や経験が未熟であり、派遣前に研修を行うが、技術を習得してもそれを活用する段になると、日本との環境との違いを目のあたりにし、多くの壁にぶつかる。この双方に生じる課題は対照的であり、お互いに補完できる可能性が示唆される。研修後の双方が連携することにより、技術の実践がスムーズになることが期待され、また日本人が関わることにより、日本での研修内容もフィードバックしやすい環境となる。よりよい研修の形を検討する上で、帰国研修員とJOCVの連携により、研修効果が高まると考える」である。

今回の最優秀者の特徴は技術内容（ハード）ではなく、研修効果のあり方（ソフト）であり、このような発表のあり方もあるのだな、と教えて頂いた。また、修習技術者の最優秀賞受賞であり、今後、技術士を目指す修習技術者にとっては、励みになること思います。

優秀賞は、都城市土木部都市計画課の藤原稔氏（環境・建設・総合技術監理部門）。テーマは「都市整備における市民参加の効用」。

日鉄金属環境（株）の箭内朋子氏（化学、技術士補）。テーマは「化学分析によるフルーツミックス缶の膨張原因解明について」。以上の2氏です。

3名の入賞者の論文は「技術士だより・九州」に掲載されるとのことであり、詳しくは上記誌を参照して頂ければと思います。

今回の入賞者3名の内、2名が修習技術者であり、現役で活躍しておられる若手の修習技術者の皆様も大いに論文発表に挑戦して頂きたいと思います。

論文発表会後、九州本部防災委員長の矢ヶ部秀美先生による「九州の災害」のテーマで特別講演があり、九州主要都市の地盤構造について拝聴させて頂き、標準ボーリングと言う言葉も教えて頂き大変勉強になりました。

また、当日は、長崎県技術士会から、発表された松浦恭千氏をはじめ、山口会長、吉田強氏、若杉泰昭氏、上戸好美氏の皆様が研鑽のため参加されておられたので、ご紹介させて頂きます。



松浦恭千氏（長崎県技術士会会員）の発表

社会資本整備に思うこと

長崎県県央振興局建設部 佐々 典明
(建設・総合技術監理)

1. はじめに

「コンクリートから人へ」を掲げた政権の影響で国の公共事業費は大きく削減されてきました。しかし、本県では地方の自立や地域間格差の是正を図るため、観光の振興や企業立地の促進、生活の安全・安心の向上などに不可欠な最低限度の社会基盤を今後も効率的かつ効果的に整備する必要があります。このような状況下、行政に携わる技術屋の立場から社会資本整備を進めるにあたっての課題と方策について私見を述べます。

2. 社会資本整備の課題

社会資本を整備する公共事業費はその大半を公的資金で賄われることから、それ自体が納税者である国民の財産です。このため、その整備は国民が要求する以下の6つの視点に立って進める必要があると考えます。まず、基本的な柱は、①安全であること、②経

済的で耐久性に優れること、③誰でも公平に利用できることであり、④にはあらゆる地域で平等であることに加え、高齢者等に配慮した施設のバリアフリー化も含まれます。また、世界的な環境への関心の高まりから、⑤豊かな環境を守り育てることや⑥限りある資源を有効活用することが必要となります。さらに、地域づくり意識の高揚から、⑦地域環境と調和した景観に配慮することも重要です。ここで留意する点として、整備水準の設定があります。現在、国民の要求は量的充足から質的充実へと移行してきており、将来の動向も含め時代とともに変化する国民の要求を的確に把握した上で整備水準を設定する必要があります。

一方、少子・高齢社会の到来は、社会保障費の増大に加え、税の担い手である生産年齢人口の減少による財源不足を予見させます。また、昨今の経済不況は国と地方の財政状況を更に厳しくしており、国・地方共に行財政改革を推進しています。このような状況を踏まえると当然のことながら、公共事業が抑制され、社会資本整備を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。

このため、限られた予算の中で国民の要求する整備水準を維持するには、整備の箇所や手法等を如何に取捨選択していくかが社会資本整備を進めていく上の課題であると考えます。

3. 今後の方策案

県が管理する道路や河川、港湾等の整備にあたっては通常、県が地域の問題点や課題から必要性を整理し市町の要望等を踏まえ、県主導で整備の箇所や手法を決定しています。しかし、視点の違いから「行政の考え方」と「住民の思い」に隔たりが生じる場合もあることから、今後我々が採るべき方策として次の二点が考えられます。

まず、住民の声を汲み取るシステムの構築です。平成10年頃から道路整備に住民の意見を反映するため、一部で欧米のパブリック・インボルブメント（以下、「P I活動」と略称）が取り入れられてきました。本県においても、国が整備している西九州自動車道（松浦～佐々間）で平成19年にP I活動が行われ、概ねのルートやインターチェンジの位置が絞り込まれました。このように、住民の意見を道路整備に反映しようとする姿勢は大いに評価できると思います。それを一步踏み込んで、その整備箇所自体や整備方法の選定段階で住民の意見を聴くシステムへ発展させてはどうかと考えます。一定エリアの道路網の中でどの整備が必要なのか、その整備はバイパスの建設か現道の拡幅かなど、具体的に尋ねることによって国民のニーズに対応した道づくりが可能になると考えます。また、そのエリア内で整備を優先すべき社会資本は道路なのか、河川なのか、港湾などのなど、具体的に住民の意向を確認するシステムへ展開することも考え

られます。

次に、住民意識の向上を図る仕掛け作りがあります。これらのP I活動に際しては、単に「道路が欲しい」という思いだけでは計画に偏りが生じるものと考えられます。このため、地域の将来像を長期的視点に立って俯瞰できる人材を計画的かつ着実に育てる必要があります。これには行政が行っている、例えば、本県の「県民大学」や「県政出前講座」等の更なる活用が有効です。県民大学は現在、県がテーマを設定し講義を行う形式であり、これを例え、「まちづくり」に特化した複数回の単位制講義とし、一定単位の取得者に「まちづくりマイスター」などの資格を付与する仕組みとします。これにより住民のモチベーションが高まり、結果として住民のまちづくり意識が向上するものと考えます。

なお、これらの活動には、地域の問題点や課題、対象地域が目指すべき将来像などを行政と住民が共に考え、情報を共有することが不可欠となります。

4. おわりに

思いつくままに社会資本整備の課題と方策を述べてきましたが、我々、行政に携わる技術者には社会のプランナーとして国土の本質を踏まえた正しい将来展望や高度化・多様化する社会的 requirementへの対応が求められます。力量不足に起因する失敗や対応の不備を数えると限がありません。このため、これまで同様にいろいろな形で技術士会の皆様のアドバイスやバックアップが不可欠と考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

以上

平成 24 年 11 月 ジオラボ現地見学会

長崎地盤研究会主催によるジオラボ現地見学会が 11 月 16 日に諫早市周辺で開催され、長崎県技術士会から多くの会員の皆様が参加されましたので紹介いたします。



国道 251 号（飯盛）地すべり災害工事現場見学
(概要説明状況)



国道 251 号（飯盛）地すべり災害工事現場見学
(県担当者による概要説明)



愛野森山バイパス軟弱地盤盛土工事現場見学
その他、諫早外環状線トンネル建設現場の見学も行いました。

機関紙発行担当者より

新年度を迎え、気持ちもあらたにご活躍のことと思います。長崎県技術士会の主要行事のひとつである総会・研修会については 6 月 8 日 (土) 諫早での開催に向けて準備を進めています。今年度の総会は役員改選など重要な議案が予定されています。また、総会・研修会に引き続き、貴重な意見交換の場である懇親会も予定されています。総会日程の詳細は後日お知らせしますが、多くの会員の皆様の出席はもちろん皆様の周りに未加入の方がございましたら、是非当会への入会と併せてお誘いいただきますよう、お願ひします。

また現在、平成 25 年度の会員名簿発行に向けて会員動向についての整理も行っています。異動・転勤等で所属・連絡先が変更になられた方はご一報頂きますよう宜しくお願ひします。

大栄開発㈱ 桐原 敏

〒857-1151 佐世保市日宇町 2690 番地

TEL : 0956-31-9358、FAX:0956-32-2711

E-mail : s.kirihara@daieikaihatsu.co.jp